

考え、議論する道徳科の授業づくり



呉市立広南中学校区
道徳教育推進リーダー教師 山崎 聖子

実践報告の流れ

- 1 研究主題の背景
- 2 研究主題
- 3 研究仮説
- 4 研究の内容
- 5 成果と課題、今後に向けて

1 研究主題の背景

(1) 学校概要

施設一体型小中一貫教育校「広南学園」



広南中

広南小

学園教育目標

未来を創る

目標の具現化に向けて

誇りをもって故里を語り、受け継ぎ、発展を担う
志と力を育てる教育の創造

目指す児童生徒像

挑戦・自律・真摯

1 研究主題の背景

(2) 児童、生徒の実態と課題

R5年度道徳教育推進拠点事業に係る児童生徒等の意識調査（5月）

質問項目	小年生 (%)	中学生 (%)
① 道徳科の勉強は好きだ	91	83
② 道徳科の勉強はためになると思う	95	98
③ 道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている	87	89
④ 道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、考えを深めたり、広げたりしている	84	98
⑤ 道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活にいかしている	82	82

1 研究主題の背景

(3) 主題設定の背景

考え、議論する道徳科の授業

道徳教育推進リーダー
チームティーチング

学校・家庭・地域

カリキュラムマップ作成

2 研究主題

「Society5.0を生きる資質・能力の育成」

～主体的に考え、議論し、

自己の生き方を考える道徳科の授業づくりを通して～

自分事として考える

→自分だったらどうするだろう。

→これまでの自分はどうだったろうか。

→自分の生活に生かしていこう。

3 研究仮説

自分事として主体的に考え、議論し、自己の生き方を考える道徳科の授業を充実させることによって、何事にも挑戦し、自律し、課題解決に向けて真摯に努力し続ける児童生徒を育成することができるであろう。

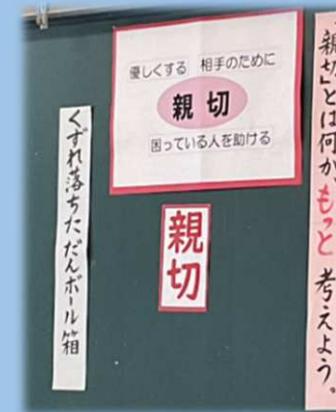
4 研究の内容

- (1) 主体的に考えるための工夫
- (2) 考え、議論するための工夫
- (3) 自己を振り返るための工夫

(1) 主体的に考えるための工夫

①課題提示（導入）の工夫

事前アンケートの活用
→考えの共有
→時間の短縮化



小学校第5学年「くずれ落ちた段ボール箱」(親切、思いやり)

(1) 主体的に考えるための工夫

①課題提示（導入）の工夫

アンケートと児童の実態の比較



↓
現状とのずれ

みんなが使うものがあることで便利なはずなのに
困ることがあるのはどうしてだろう。

小学校第3学年「黄色いかさ」(規則の尊重)

(1) 主体的に考えるための工夫

①課題提示（導入）の工夫

実際起こりそうな
葛藤場面の提示



決断に迷ったとき、何を大切にしたらよいのだろう。

小学校第6学年「手品師」(正直、誠実)

(1) 主体的に考えるための工夫

①課題提示（導入）の工夫

教材の事前配付、感想の提出
→生徒の感想を用いての話合い

自分なりの善が人には悪い事と
えられることがある

規則を破ってしまうけど人を笑顔にできるのと、規則を守って
悲しい思いをさせるのとではどっちが正解なのだろう？

ロイノートに提出された生徒の感想

意図的指名とねらいの焦点化

きまりってどういうことか。

中学校第3学年「二通の手紙」（遵法精神、公德心）



(1) 主体的に考えるための工夫

②教材提示の工夫

わかりやすい提示
→自分とのかかわりで
考えやすくする。

具体物を使って

小学校第5学年「くずれ落ちた段ボール箱」（親切、思いやり）



(1) 主体的に考えるための工夫

②教材提示の工夫

手品師

男の子



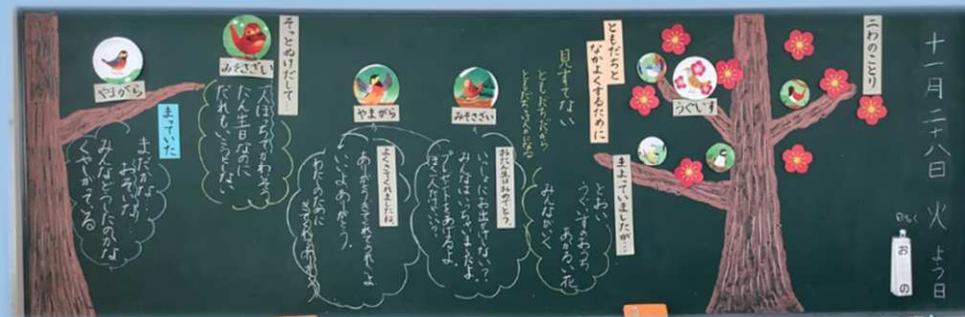
役割読み
→登場人物の状況の把握

小学校第6学年「手品師」（正直、誠実）

(1) 主体的に考えるための工夫

②教材提示の工夫

黒板シアター



小学校第1学年「二わのことり」（親切、思いやり）

(2) 考え、議論するための工夫

①発問の精選

- 考えたくなる問い
- 考えざるを得ない問い
- 新しい学びは何か
- ※ねらいにせまる発問

段 (27分)	グループワーク ↓ 全体交流	<p>「怖い」が立つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんで怒られないといけないのか。 ・自分が嫌したように見られるのは嫌だ。 ・例したのは私じゃない。 ・せつなく手紙のために、なんで怒られないといけないのか。 	<p>後、友達と話を交わし、自分の考えを再構築できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な行為が否定されてやりにくいと思う児童の気持ちに共感しながらも、認めてもらえない自分のやったことが間違いだと思ってしまう心の弱さに気付かせる。 ・良かったと思う気持ちがあったとしたらそれはなぜか考えさせる。
		<p>「やって良かった」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怒られたのは嫌だけど、おばあさんが喜んでくれたから。 ・おばあさんやみんなの役に立てたから。 	
		<p>中心発問</p> <p>校長先生の話を聞いた「わたし」はどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長先生に褒められて嬉しいな。 ・店員さんが分かってくれてよかった。 ・やっぱり良いことって返ってくるんだな。 ・あの時お手紙を書いてよかったな。 ・これからも困っている人がいたら助けたいな。 	<p>補助発問 (深める発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長先生は、なぜ職員でお話したのかに触れ、周りの人にも温かい気持ち広がっていることに気付かせよう。 ・「おばあさん」が良かったと思う理由を聞いて、おばあさんやみんなの役に立てたことに気付かせよう。

(2) 考え、議論するための工夫

②自分の考えを持たせる

- 選択（2軸、ネームプレート）、キーワードでの整理



(2) 考え、議論するための工夫

③議論する場の設定の工夫

- コの字型の机配置



(2) 考え、議論するための工夫

③議論する場の設定の工夫

- 対話の形式
- 話し方の指導（顔を見て話す、認め合う聞き方）



(2) 考え、議論するための工夫 めざす「考え、議論する姿」

考え、議論する姿	具体的実践	理由	効果
基本	対話の場を設け、お互いの考えを尊重し、意見を述べあう。	対話の場を設けることで、お互いの考えを尊重し、意見を述べあうことができる。	対話の場を設けることで、お互いの考えを尊重し、意見を述べあうことができる。
発展	対話の場を設け、お互いの考えを尊重し、意見を述べあう。また、対話の場を設け、お互いの考えを尊重し、意見を述べあう。	対話の場を設けることで、お互いの考えを尊重し、意見を述べあうことができる。また、対話の場を設けることで、お互いの考えを尊重し、意見を述べあうことができる。	対話の場を設けることで、お互いの考えを尊重し、意見を述べあうことができる。また、対話の場を設けることで、お互いの考えを尊重し、意見を述べあうことができる。
応用	対話の場を設け、お互いの考えを尊重し、意見を述べあう。また、対話の場を設け、お互いの考えを尊重し、意見を述べあう。	対話の場を設けることで、お互いの考えを尊重し、意見を述べあうことができる。また、対話の場を設けることで、お互いの考えを尊重し、意見を述べあうことができる。	対話の場を設けることで、お互いの考えを尊重し、意見を述べあうことができる。また、対話の場を設けることで、お互いの考えを尊重し、意見を述べあうことができる。

理由をつける
↓
比較
↓
見つめなおす
↓
考えを生かす

レベルアップ

(3) 自己を振り返るための工夫

① 振り返りの視点の活用

ふりかえりの視点

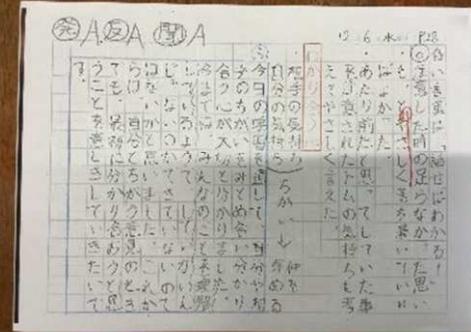
- 今日の学習でどんなことが分かったか。これまでの自分はどうだったか。これからの生活にどういかしていくか。
 - 今日の学習でどんなことが分かったか。友達の考えを聞いてどんなことを考えたか。
- 今日の学習で一番心に（印象に）残ったことはどんなことか。
○今日の学習でさらに疑問に思ったことはどんなことか。

③	道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている
④	道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、考えを深めたり、広げたりしている
⑤	道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活にいかしている

時間の確保、振り返る視点の焦点化

(3) 自己を振り返るための工夫

① 振り返りの視点の活用



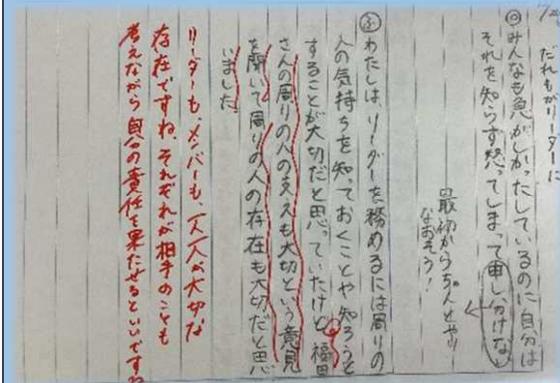
ふりかえりの視点
① 今日の学習でどんなことが分かったか。これまでの自分はどうだったか。これからの生活にどういかしていくか。

学習内容とこれまでの生き方を比較して考える児童

小学校第4学年「合言葉は、話せばわかる」（相互理解、寛容）

(3) 自己を振り返るための工夫

① 振り返りの視点の活用



ふりかえりの視点
② 今日の学習でどんなことが分かったか。友達の考えを聞いてどんなことを考えたか。

友達の意見を聞いて自分はどうか振り返る児童

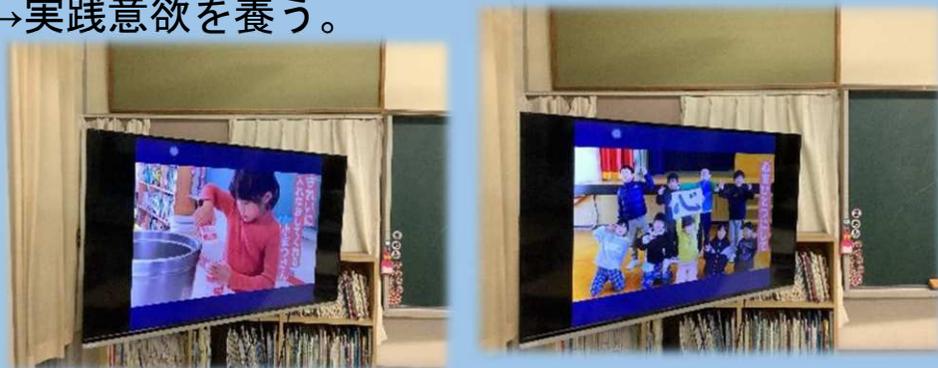
小学校第6学年「だれがリーダーに」（よりよい学校生活、集団生活の充実）

(3) 自己を振り返るための工夫

②道徳科の学びと生活（道徳的実践）の結び付け

→認め励ます評価

→実践意欲を養う。



5 成果と課題

R5年度道徳教育推進拠点事業に係る児童生徒等の意識調査

質問項目	小年生 (%)		中年生 (%)	
	5月	12月	5月	12月
① 道徳科の勉強は好きだ	91	86	83	88
② 道徳科の勉強はためになると思う	95	96	98	98
③ 道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている	87	92	89	100
④ 道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、考えを深めたり、広げたりしている	84	92	98	96
⑤ 道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活にいかしている	82	83	82	88

5 成果と課題

○道徳科の授業を肯定的にとらえている児童生徒が多い。

○自分のことを振り返りながら考えたり、学習の中で考えを深めたり、広げたりしてる児童生徒が増えてきている。

△授業で学んだことを自分の生活と生かすことができていない。

今後に向けて

カリキュラムマネジメントによる取組により、道徳科で学んだことを生活にも広げ、自己の成長を感じられるようにする。

ご清聴ありがとうございました



令和5年度第2回広島県道徳教育研究協議会 実践報告及び協議
「道徳教育の要としての道徳科の指導の充実に向けて」第1分科会

「主体的・対話的で深い学び」 を促す多様な指導方法の工夫 ～発問の工夫の視点から～



大竹市立小方小学校 道徳教育推進リーダー 西 涼子

小方学園 道徳教育重点目標

思いやりの心を育み、望ましい人間関係を築く

研究主題

道徳的行為をしようとする内面の
力を育てる道徳科の授業の在り方
～道徳的価値観を形成する発問づくりを通して～

主な研究内容

- (1) 道徳的価値観を形成する発問づくり
- (2) 9年間での発達段階に応じた道徳的価値の理解

取組内容

- (1) 教職員間で研究推進に向けた共通認識をもつ
- (2) 日々の授業改善を通じた取組の工夫
- (3) 道徳参観日を活用した授業改善
- (4) 環境整備(教材の整備、掲示物)

(1) 教職員間で研究推進に向けた共通認識をもつ

① 理論研修

- ・研究の目的や目指す子どもの姿の共有
- ・島恒生教授の招聘



島教授による理論研修



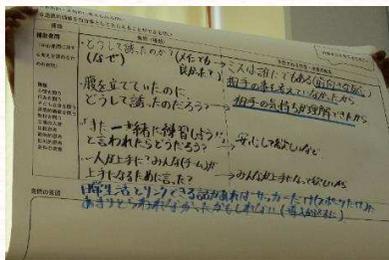
小中合同での研修

(1) 教職員間で研究推進に向けた共通認識をもつ

②授業研究会

- ・指導案・発問作成シートの事前配布
- ・授業前に発問作成シートへ記入

発問作成シート
(個人用)



発問作成シート (協議用)



発問作成シートを活用した
グループ協議

(1) 教職員間で研究推進に向けた共通認識をもつ

③道徳コーナー (教職員向け) を活用した情報発信

- ・研修の成果物
- ・発達段階一覧
- ・道徳通信 (教職員向け)
- ・道徳教育に関する情報 など



教職員向け道徳コーナー

(2) 日々の授業改善を通じた取組の工夫 (PDCAサイクル)

①授業前の協議

- ・空き時間や放課後の活用
- ・ねらい・めあて・発問の検討

②授業後の振り返り

- ・児童生徒の考えを深められる
発問であったか
- ・ねらいを達成することが
できたか



授業前協議の様子

(2) 日々の授業改善を通じた取組の工夫 (PDCAサイクル)

③相互授業参観

- ・授業づくりの学び合い
- ・学級経営の改善



授業参観の様子

学年	時間	内容
1年	10:00-10:45	道徳科
2年	10:00-10:45	道徳科
3年	10:00-10:45	道徳科
4年	10:00-10:45	道徳科
5年	10:00-10:45	道徳科
6年	10:00-10:45	道徳科

道徳科時間割の掲示

(3) 道徳参観日を活用した授業改善

- ・ペア学年での模擬授業
(発問の検討を中心に)
- ・実施後の振り返り



道徳参観日の様子



ペア学年での模擬授業

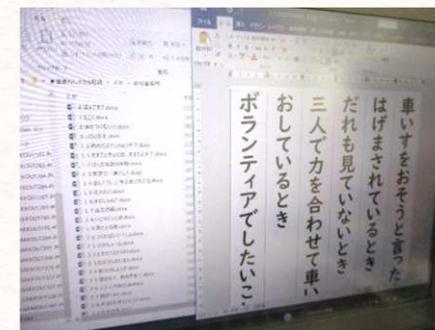
(4) 環境整備

①教材の整備

- ・場面絵等
- ・掲示物データ(めあて・発問等)の作成



学期ごとの引き出しに整理



データ化(編集のしやすさ)

(4) 環境整備

②道徳コーナー(児童生徒向け掲示板)の整備

- ・道徳科の学びを生かす
(児童生徒)
- ・児童生徒を認め、励ます
(教職員)



児童生徒向け道徳コーナー

成果と今後に向けて

○成果

- ・教師の発問づくりに係る意識の変化
- ・事前協議による授業の質の向上



○今後に向けて

- ・児童生徒の内面の力の見取り(指導と評価の一体化)
- ・他教科と関連付けた指導の充実、発達段階に応じた指導
(カリキュラム・マネジメント)

主題・教材解釈から始める道徳科の授業

江田島市立三高中学校区
道徳推進リーダー教師 久保翔太郎

実践報告の流れ

1. 研究の概要
2. 教材解釈シートの活用
3. 今後に向けて

研究の概要（三高中学校区の現状・課題）

- 良さ**
 - 素直で優しい
 - 一生懸命取り組む
- 課題**
 - 他者や集団等での関わり（卒業後の戸惑い）
 - 自分自身で考え行動する力が十分ではない



小中合同あいさつ運動



園小中運動会

研究の概要

研究主題

「主体的に学び、協働する児童生徒の育成」
～小中9年間の系統的な道徳科の授業づくりを通して～

研究内容

- 自分との関わりにおいて、多面的・多角的に考える発問の工夫
- ICTの効果的な活用による指導方法の工夫
- 児童生徒の実態、興味・関心を踏まえた教材解釈シートの活用

教材解釈シートの活用（教師の指導の意図の明確化）

○主題について学びを深めていくために

→内容項目に係る発達段階の把握

→児童生徒の実態把握

→教材の活用
(発問、思考ツール、切り返し)

内容項目

児童生徒
の実態

教材

道徳科
「深い学び」のための
内容項目ハンドブック

教材解釈シートの活用（シートを活用した打ち合わせ）

	自分なりに考えて(自己理解)	他の先生方と話し(他者理解)
①この内容項目の大切なこと※それはなぜ大切なのでしょうか	・社会性を身に付けるため ・人と協力して生きるため	・わがままだとトラブルになるから
②この内容項目の難しいこと※いつでもできませんか。誰に対してもできますか。	・自分を信じたい ・信用できない人もある ・納得がいかない	・自分が楽や得をしたい。
③それでもなお大切なこと※難しさを越えて大切にしたいのはなぜでしょうか。	・一人では生きていけないから他人との協力は必要。そのため、他人の気持ちの理解をすることが大切。	・自分だけ楽や得をすることが本当に良いことではない。

内容項目
の大切さ

誰にでも
ある弱さ

それでも
なおの大切さ

主題を学ぶ意義の検討→教師の指導の意図の明確化

教材解釈シートの活用（江田島市道徳教育推進協議会）



小学校



中学校

○教材解釈シートの事前配付→協議の活性化

教材解釈シートの活用（道徳教育推進協議会、公開研究会）

主題名：「よく考えて行動する」

内容項目：A-(3)節度、節制

教材名：ぼくを動かすコントローラー

内容項目
の大切さ

発達段階の整理

	自分なりに考えて(自己理解)	他の先生方と話し(他者理解)
①この内容項目の大切なこと※それはなぜ大切なのでしょうか。	・規則正しい生活を送る。 ・先のことをよく考えて自分の健康や安全は自分で気を付ける。 ・人間関係でトラブルを起こさない	・自分を律する。 ・節度ある生活 ・常識のある行動 ・自分の中の線引き
②この内容項目の難しいこと※いつでもできませんか。誰に対してもできますか。	・誘惑に負ける。 ・周囲に流される。 ・つい気がゆるむ(甘さ)。	・コントロールできない。 ・流されてしまう。 ・欲求が勝ってしまう。 ・後のことを考えない。
③それでもなお大切なこと※難しさを越えて大切にしたいのはなぜでしょうか。	・コントロールするのは自分 ・他人に心配や迷惑をかけない。 ・自分の弱さに気づく。	・結局自分が困る。 ・大事な時に力が出せない。 ・自分の健康や安全を守る。 ・先の見通し ・信頼

教材解釈シートの活用（道徳教育推進協議会、公開研究会）

主題名：「よく考えて行動する」

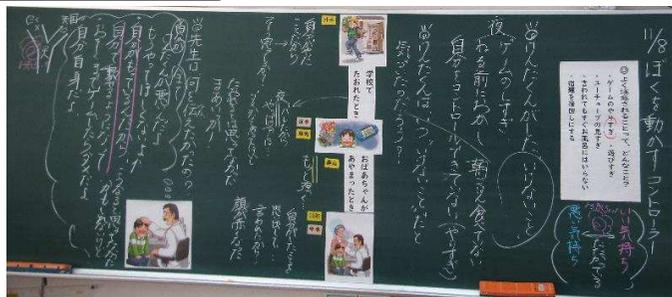
内容項目：A-(3) 節度、節制

教材名：ぼくを動かすコントローラー

発達段階の整理

中学年のキーワード：自分で

天国と地獄の分かれ目



自分で考え判断する難しさや大切さ

教材解釈シートの活用（道徳教育推進協議会、公開研究会）

主題名：責任ある言動

内容項目：A-(1) 自主・自律・自由と責任

教材名：ネット将棋

主題を学ぶ意義

		自分なりに考えて(自己理解)	他の先生方と話して(他者理解)
価値理解	①この内容項目の 大切さ ※それはなぜ大切なのでしょうか。	・目の前にいない人に敬意を払う。 ・逃げないこと ・自分で判断し行動できないと生きていけない。	・信頼関係を築くために必要なもの ・認める。 ・人として、モラル、自分の軸のブレからの逃避
人間理解	②この内容項目の 難しさ ※いつでもできますか。誰に対してもできますか。	・失敗をしたくない。 ・人のせいにした方が楽 ・逃げた方が楽	・プライド=負けないこと ・周りの環境によって、自分の軸がずれる。
人間理解 (弱さを乗り越えてよりよく生きようとする強さ) 深まった価値観 (新たな気づき)	③ それでもなお大切さ ※難しさを乗り越えて大切にしたいのはなぜでしょう。	・言動を受け入れる。 ・自分に責任をもって、さっぱりと生きる。 ・ <u>自分の成長</u> 、相手との信頼	・相手を大切に→自己の向上 ・自分がよりよく生きるため ・その場をしのいでも、自分の成長につながらない。

教材解釈シートの活用（小中合同研修会）

主題名：責任ある言動

内容項目：A-(1) 自主・自律・自由と責任

教材名：ネット将棋

キーワード：自分の成長



プラスの道徳にしたい

教材解釈シートの活用（大学院教授からの指導）

主題名：責任ある言動

内容項目：A-(1) 自主・自律・自由と責任

教材名：ネット将棋

キーワード：自分の成長



プラスの道徳にしたい

キーワード
「主人公は何に気づき始めたか」

教材解釈シートの活用（道徳教育推進協議会、公開研究会）

主題名：責任ある言動

内容項目：A-（1）自主・自律・自由と責任

教材名：ネット将棋

キーワード：自分の成長

プラスの道徳にしたい

主人公は何に気づき始めたか

① 「これからは大事な事だ、大切にしていくなか振り返りましよう。」

② 敏和のツミに笑えなかつた僕は、どんなことに気づき始めたのだろうか。

③ 自分自身を振り返らない、自分に都合の良い言動を取るかしない、本音を出さず、洗練された言動を取るかしない。

④ 責任ある言動

ネット将棋

言動と責任について、自ら振り返られているか（自分との関わりで考える）

繰り返し：ぼくのいいところってなんだろう。

教材解釈シートの活用（意義のまとめ）

○主題、内容項目、道徳的価値について、授業者の見方が広がる。

→多面的・多角的に考えさせるための少数意見の活用、
切り返しができる。

○複数人の教師で協議することで、道徳教育を推進しようとする風土ができる。

今後に向けて

- 教材解釈シートを活用した校内研修の充実
- T1とT2で協力して授業を実施
- 主体的・協働的な深い学びの実践の継続

事業終了後も継続して取り組む！

令和5年度第2回広島県道德教育研究協議会
「道德教育の要としての道德科の指導の充実に向けて」
第2分科会「カリキュラム・マネジメントの観点からの工夫」実践報告

教育資源の活用と 組織的な取組の充実

海田町立海田中学校
道德推進リーダー
山田雄三

① 研究の概要

研究主題

出会いやかかわりの中で

「自己肯定感」を育成する授業づくり

～教育活動全体を通じて行う道德教育の推進を通して～

報告の流れ

① 研究の概要

② 道德学習プログラム

・ねらい

・事例 ～全校登校『命の日』～

① 研究の概要

検証指標（自己肯定感）

番号	質問項目	時期		肯定	否定
7	自分にはよいところがあると思う	年度初	人数	337	75
			割合	82%	18%
		年度末	人数	344	65
			割合	84%	16%
8	自分のよさが、まわりの人からみとめられていると思う	年度初	人数	301	111
			割合	73%	27%
		年度末	人数	332	77
			割合	81%	19%

○ 年2回の実態調査

② 道徳学習プログラム

～全校登校日『命の日』（平和学習）～

読み聞かせ「ヒロシマ消えた家族」



② 道徳学習プログラム

～全校登校日『命の日』（平和学習）～

道徳科「あれは77年前の私」

本時のテーマ

平和な日常に感謝するとともに、生命の尊さについて考えよう。



生徒の

振り返り①

私は竹本さんの「人を嫌いにならないでね、人を好きになてね」という言葉が印象に残りました。今の世界は人と人が協力して解決しなければならぬ問題がたくさんあるので、人を大切にしたいと思いました。

今自分は戦争がない中で生活しているけど、今の生活は普通ではないので、もっと昔の戦争中も考えて生活しようと思う。

平和の大切さを将来子ども達に伝えていく。自分自身も、友達をいじめたりけんかをしないようにする。18歳になったら、世界平和を目指している人に選挙で投票する。世界中の人が世界平和について原うようにし、考えるようにして、世界平和を目指して行動する。



戦争をなくすためには、人同士の助け合いや仲良くしているとおりにくいと分かり、これからみんなと仲良く過ごして、こうと思いました。

生徒の振り返り②

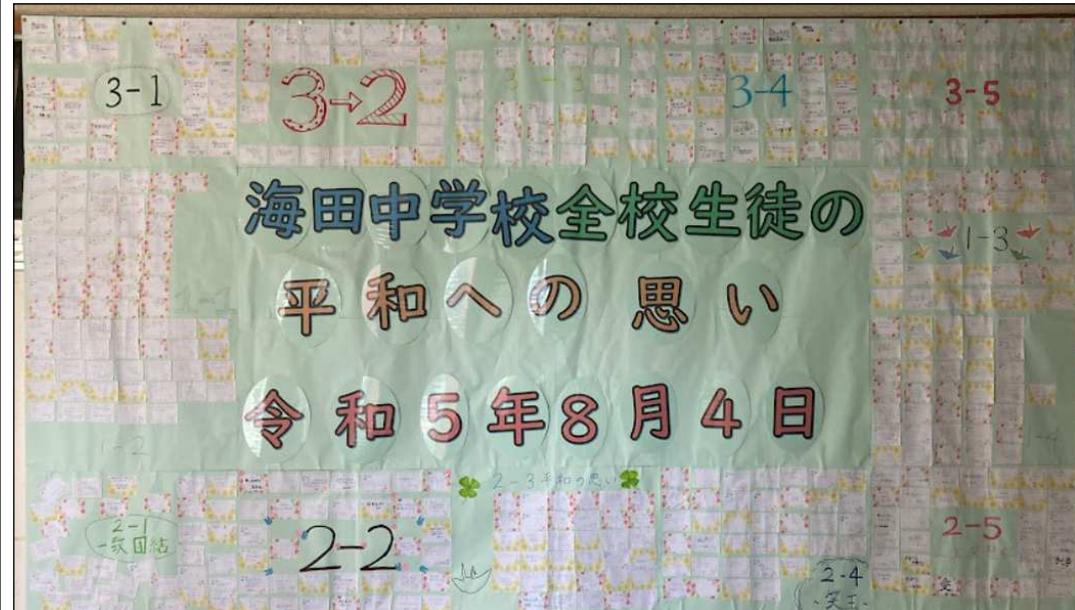
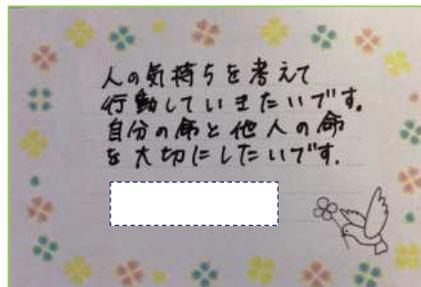
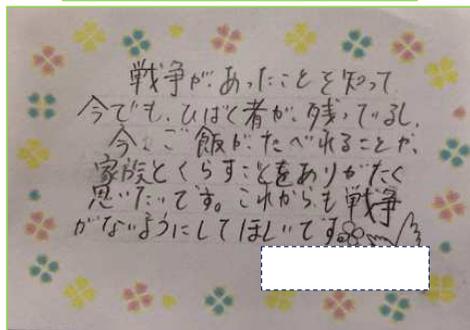
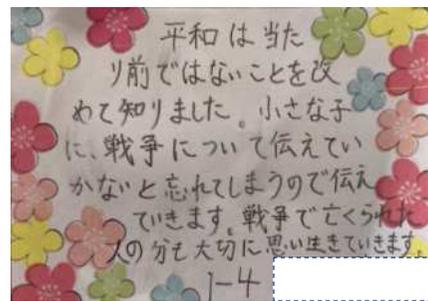
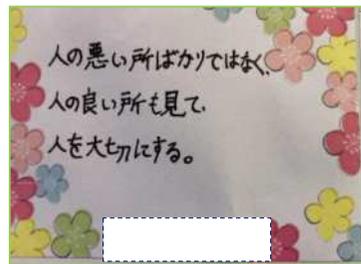
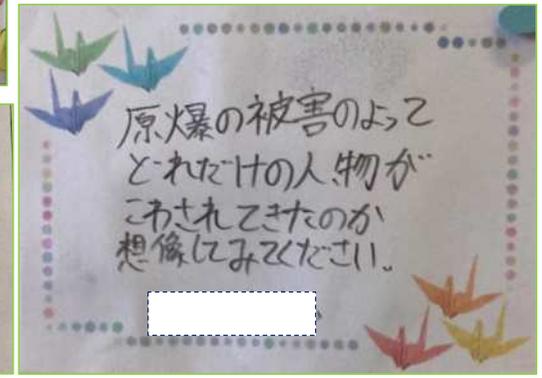
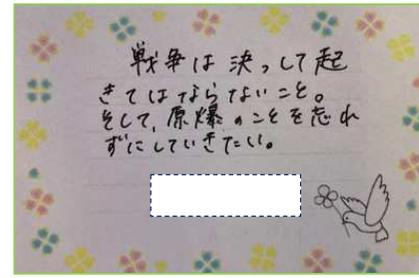
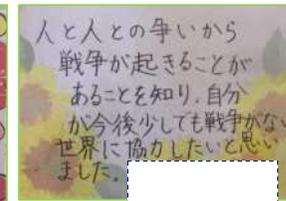
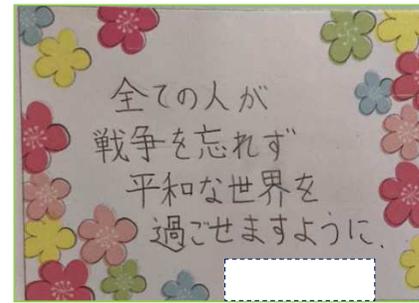
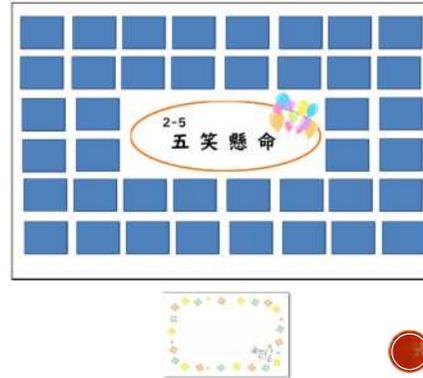
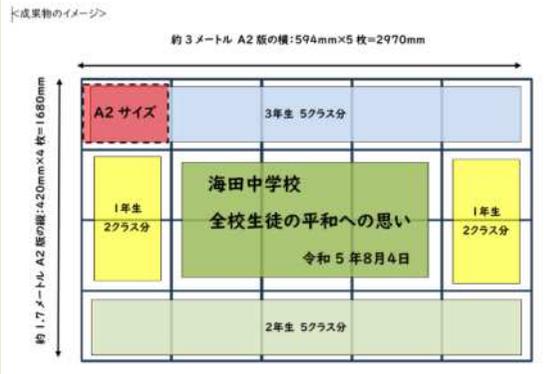
・まずは自分の命を第一に考えること。
・その次は身の周りの人のことも考えること。
命の重要さが分かりました。
もっと命を大切にしたいです。

戦争をこれ以上してほしくないし、戦争に発展するようなこと、または、けんかやいじめなどをしてほしくないし、したくないと思いました。



② 道徳学習プログラム

～全校登校日『命の日』（平和学習）～
海田中学校 全校生徒の平和への思い



令和5年度第2回広島県道徳教育研究協議会

「道徳教育の要としての道徳科の指導の充実に向けて」

第2分科会「カリキュラム・マネジメントの観点からの工夫」実践報告

教育資源の活用と 組織的な取組の充実



海田町立海田中学校
道徳推進リーダー
山田雄三

道徳性を育む カリキュラム・マネジメントの実際



熊野町立熊野第二小学校 中村 亜沙子

令和5年度道徳教育推進拠点地域（中心校：熊野第二小学校）

【令和5年度 研究主題】

自己の生き方についての考えを深め、
よりよく生きようとする児童生徒の育成
－道徳科と他教科等との繋がりに着目して－

カリキュラム・マネジメントの
側面の1つ「教科横断的な視点」を
研究の中核

I 研究の概要

- P (1) 主題設定の理由
- D (2) 道徳学習プログラム
(かがやきチャレンジプログラム)

C II 結果と考察

A III 改善の営み

P IV 今後に向けて

I 研究の概要

- P (1) 主題設定の理由
- (2) 道徳学習プログラム
(かがやきチャレンジプログラム)

II 結果と考察

III 改善の営み

IV 今後に向けて

I (1) 主題設定の理由

令和3・4年度道徳教育推進拠点地域（中心校：熊野東中学校）

令和4年度 研究主題

自己をみつめ、他者とともに、
よりよく生きようとする児童の育成
－「対話」を通して考えを深める道徳科の授業の工夫－

対話場面設定の工夫

道徳科を中心とした
カリキュラム・マネジメント

I (1) 主題設定の理由

児童のアンケート結果（令和4年度1月）

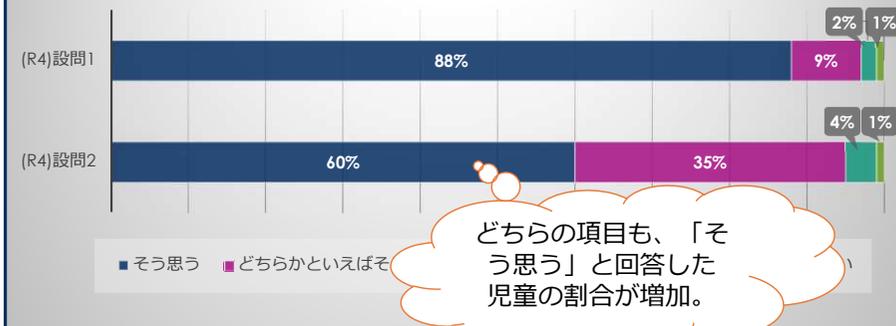


設問1：人の気持ちがわかる人になりたいと思う。

設問2：道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、
自分の考えを深めたり、広げたりしている。

I (1) 主題設定の理由

児童のアンケート結果（令和4年度1月）

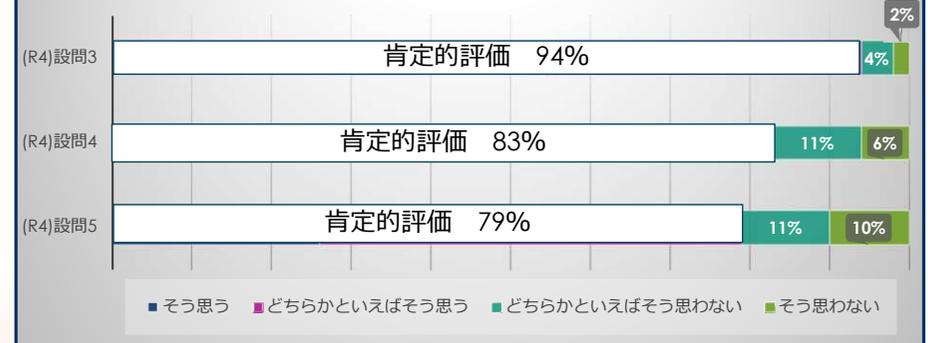


設問1：人の気持ちがわかる人になりたいと思う。

設問2：道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、
自分の考えを深めたり、広げたりしている。

I (1) 主題設定の理由

児童のアンケート結果（令和4年度1月）

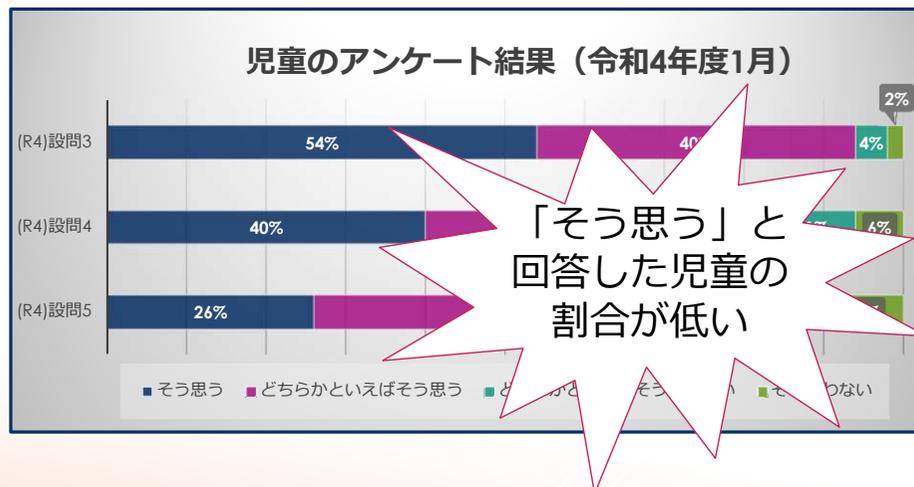


設問3：道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている。

設問4：道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活に生かしている。

設問5：自分のよさが、まわりの人からみとめられていると思う。

I (1) 主題設定の理由



設問3：道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている
設問4：道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活に生かしている
設問5：自分のよさが、まわりの人からみとめられていると思う

I (1) 主題設定の理由

【要因】

<道徳科の授業づくりで十分でなかったこと>

- ・ 児童が自分と関わらせながら考えること
- ・ 道徳科の学習と生活との関わりを意識すること

<教育活動全体で十分でなかったこと>

- ・ 自分自身の個性や目指す生き方を自覚し、それらを発揮したり認め合ったりすること

設問3：道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている。
設問4：道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活に生かしている。
設問5：自分のよさが、まわりの人からみとめられていると思う。

I (1) 主題設定の理由

学校教育全体を俯瞰した
学習プログラムデザイン

道徳科の充実

【令和5年度 研究主題】

自己の生き方についての考えを深め、
よりよく生きようとする児童生徒の育成
－道徳科と他教科等との繋がりに着目して－

I 研究の概要

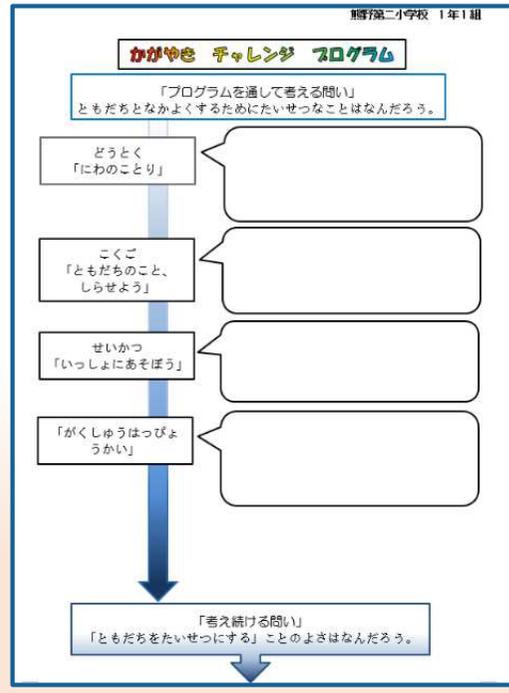
- P (1) 主題設定の理由
- D (2) 道徳学習プログラム
(かがやきチャレンジプログラム)

II 結果と考察

III 改善の営み

IV 今後に向けて

I (2) 道徳学習プログラム（改善点）



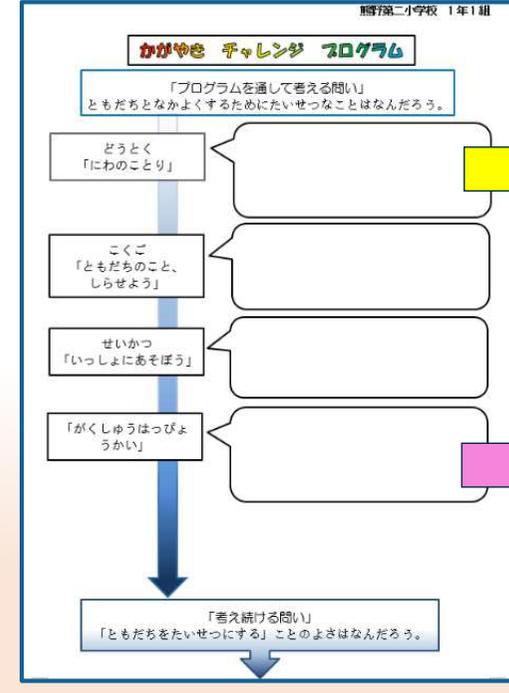
【今年度の改善点】

- ・ 児童と共有できるシート
→ 学級全体で価値を共有する活動の設定

↓

道徳科と他の教育活動の
繋がりを強める。

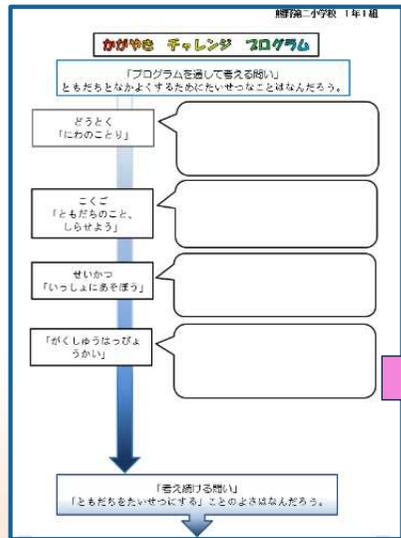
I (2) 道徳学習プログラム（掲示と配付）



拡大版を
教室に掲示

児童用
ワークシート

I (2) 道徳学習プログラム（手順）

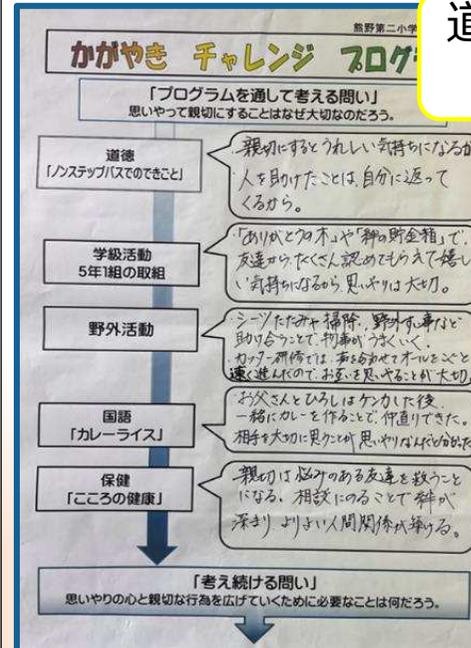


児童の記述から主だったものを記述、全体共有

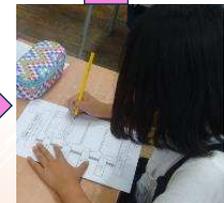


単元の学習とプログラムを通して考える
問いをかかわらせての振り返りの記述

I (2) 道徳学習プログラム（目的）



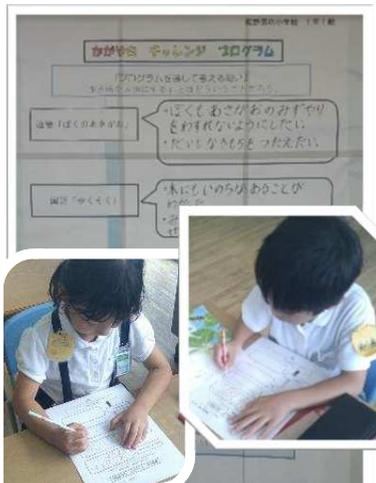
道徳科と他の教育活動の
繋がりの意識向上



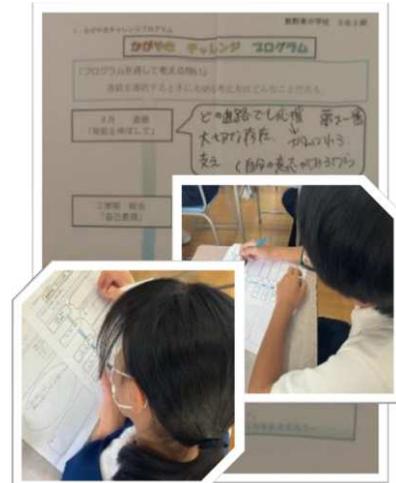
多面的・多角的に
考えを深めていく。

I (2) 道徳学習プログラム（連携校での実践）

熊野第四小学校



熊野東中学校



I (2) 道徳学習プログラム（各校の資源を活用したプログラム）

熊野第二小学校



地域のスーパーや図書館の活用

熊野第四小学校



卒業生のビデオメッセージ

熊野東中学校



特産品の修学旅行販売

I 研究の概要

- P** (1) 主題設定の理由
- D** (2) 道徳学習プログラム
(かがやきチャレンジプログラム)

C II 結果と考察

III 改善の営み

IV 今後に向けて

II 結果と考察

検証の視点

- ① 児童生徒は、自己の生き方について考えを深めることができたか。
- ② 教師の主題解釈や発問の工夫は、自己の生き方について考えを深める児童生徒の育成に有効だったか。
- ③ 自己の生き方について考えを深め、よりよく生きようとする児童生徒を育成することができたか。
- ④ 道徳学習プログラム（かがやきチャレンジプログラム）の活用は、自己の生き方について考えを深め、よりよく生きようとする児童生徒の育成に有効だったか。

II 結果と考察

検証の視点

- ①児童生徒は、自己の生き方について考えを深めることができたか。
- ②教師の主題解釈や発問の工夫は、自己の生き方について考えを深める児童生徒の育成に有効だったか。
- ③自己の生き方について考えを深め、生きようとする児童生徒を育成することができたか。
- ④道徳学習プログラム(プログラム)の活用は、自己の生き方について考えを深め、よりよく生きようとする児童生徒の育成に有効だったか。

アンケート

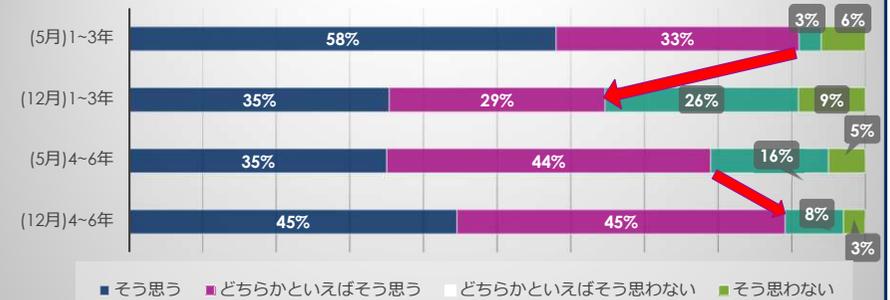
抽出児童行動観察

記述

II 結果と考察 (アンケート)

設問：道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活にいかしている。

学年別児童のアンケート結果 (令和5年度)

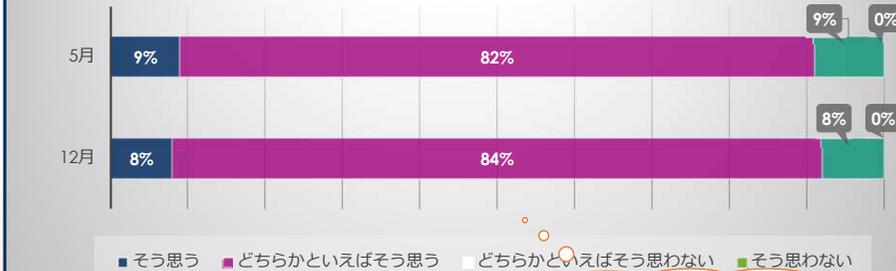


【結果・分析】肯定的評価…下学年は減少、上学年は増加
→生活へ生かすことへの意識をもち始めたが、低学年はメタ認知が難しく、生かしている実感が持ちにくい。

II 結果と考察 (アンケート)

設問：児童生徒が道徳科の授業で勉強したことを自分の生活にいかしている。

教師のアンケート結果 (令和5年度)



肯定的評価は90%以上

【今後に向けて】

教師が様々な場面で道徳的価値が実現される児童の姿をプラスの視点で見取り、評価し、指導にいかしていくことが必要

II 結果と考察 (抽出児童行動観察...教師の見取り)

単元名等	A児	B児	C児
学級活動 「5年1組の取組」	いつも、友達の良かったところを見つけて感謝の言葉を伝えている姿が見られる。	「思いやり」の言葉が聞かれる。	友達の発言の揚げ足を取る場面があまり見られなかった。
野外活動	時間を意識して班員に声をかけ、率先して助けようとする姿が見られた。(下線①)	「自分たちは司会を務めた際、もう一人の司会者のペースに合わせて進行することができた。(下線④)。」と発言していた。	友達のペットメイキングを手伝う姿(下線⑦)が見られた。
国語 「カレーライス」	父が子を思う優しさに感動し、親の子に対する思いは、自分からいえるより深いことに気付いた。	「自分のことはまあまあ好き」と回答。「大好き」ではない理由が判然としない。もし、悩んでいる友達がいれば、親身に接していきたい。(下線②)と発言した。	「自分のことはまあまあ好き」と回答。「大好き」ではない理由が判然としない。もし、悩んでいる友達がいれば、親身に接していきたい。(下線⑤)と発言した。
保健 「こころの健康」	「自分のことはまあまあ好き」と回答。「大好き」ではない理由が判然としない。もし、悩んでいる友達がいれば、親身に接していきたい。(下線②)と発言した。	「自分のことはまあまあ好き」と回答。「大好き」ではない理由が判然としない。もし、悩んでいる友達がいれば、親身に接していきたい。(下線⑤)と発言した。	「自分のことはまあまあ好き」と回答。「大好き」ではない理由が判然としない。もし、悩んでいる友達がいれば、親身に接していきたい。(下線⑧)と発言した。

班員に声をかけ、率先して助けようとする。

相手のペースに合わせて進行する。

思いやりをもって接していきたい。

内容項目「親切、思いやり」

II 結果と考察 (抽出児童行動観察...児童の記述)

単元名等	A児	B児	C児
学級活動 「5年1組の取組」	「ありがとうの木」で、たくさん「ありがとう！」と言ってもらえてとても嬉しかったし、「ありがとうの木」で私の気付かなかったすごい所を見付けてもらったので、思いやりは大切だと思いました。	「ありがとうの木」では、友達がどれだけ人に感謝や思いやりをもっているかが分かり、書いた方も嬉しいし、書かれた方も嬉しいことが分かりました。	「ありがとうの木」を書き始めて、当たり前だと思っていたことが当たり前では無いことに気付いた。(下線⑩)し、感謝の気持ちで伝えたり伝えてもらったりになるのです。
野外活動	他の人のシーツと一緒に畳んだり、野外炊事で食材を切るのを手伝うと、その人が助かるし早く終わるので、親切は大切(下線⑨)と思った。	友達と協力して活動することの良さが分かりました。カッター研修ではみんなと声を合わせて協力して漕ぎました。終わりは友達と協力して畳みました。	シーツを敷く時、みんなを手伝ってあげたり手伝ってもらったりすると早く終わるので、親切は大切(下線⑩)し、野外炊事でみんなと協力して畳みました。
国語 「カレーライス」	「カレーライス」を作るとき、思いやりは仲の良さに繋がる。	「カレーライス」を作るとき、親切は協力に繋がる。	「カレーライス」を作るとき、思いやりは仲の良さに繋がる。
保健 「こころの健康」	友達が悩んでいる時に、すぐに相談にのってあげて、その友達の悩みが解決できるようにしたいです。そうすると、良い気持ちになるので大切だと思いました。	友達に何かあった時は、しっかり話を聞いて相談にのってあげる。だから親切にすることと思いやることは大切だと思いました。	友達が悩んだり困っていたりしたら、相談したり悩みを聞いてあげたりできるから親切は大事。

当たり前ではなく、思いやりを受けていた。

思いやりは仲の良さに繋がる。

親切は協力に繋がる。

II 結果と考察

【行動観察/かがやきチャレンジプログラムの記述】

- 道徳的行為が実践される姿
- 道徳的価値への理解を深めている姿



かがやきチャレンジプログラムの有効性を示唆

II 結果と考察

【行動観察/かがやきチャレンジプログラムの記述】

- 道徳的行為が実践される姿
- 道徳的価値への理解を深めている姿



かがやきチャレンジプログラムの有効性を示唆

- かがやきチャレンジプログラムの改善・継続的な実施をしていくこと

I 研究の概要

- P (1) 主題設定の理由
- D (2) 道徳学習プログラム (かがやきチャレンジプログラム)

C II 結果と考察

A III 改善の営み

IV 今後に向けて

Ⅲ 改善の営み（プログラムの見直し）



12月校内研修

Ⅲ 改善の営み（プログラムの見直し）

【改善・作成ポイント】

- 専科との関わりを含めた内容の見直し
- 順番
- 単元（教科）ごとの問いの整理
- 評価場面の焦点化

多くの教職員の共通認識と指導

道徳科の前の体験
→道徳科の授業の深まり、生活との繋がり

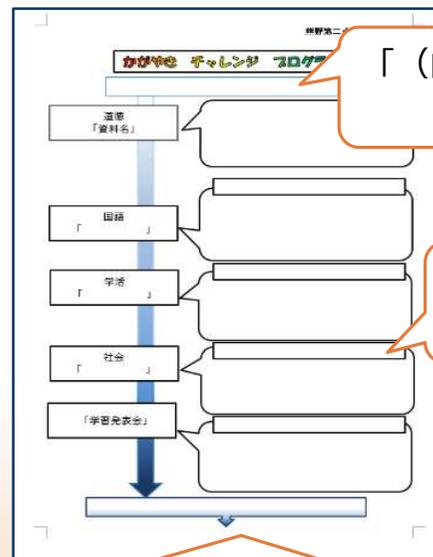
Ⅲ 改善の営み（プログラムの見直し）

【改善・作成ポイント】

- 専科との関わりを含めた内容の見直し
- 順番
- 単元（教科）ごとの問いの整理
- 評価場面の焦点化

内容項目に関わる道徳的実践がこの
場面で（このように）表れるかも…。

Ⅲ 改善の営み（型の改善）

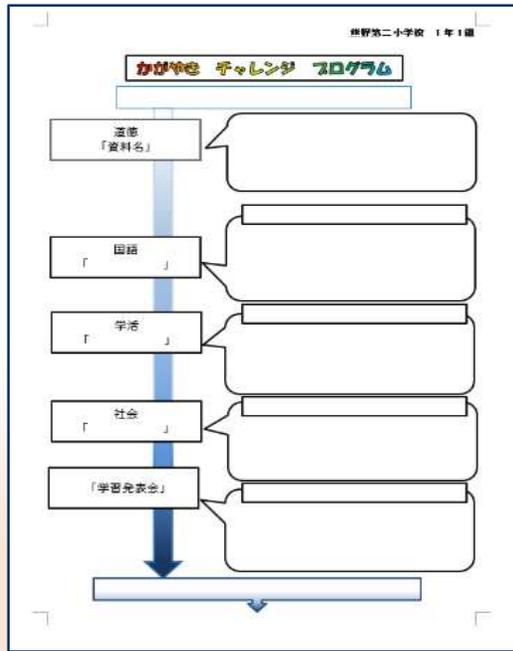


「（内容項目）について考えよう」
→学習課題を明記

単元ごとに振り返る問いを
あらかじめ設定

「きまりや約束はなぜ大切なのだろうか」
→道徳的諸価値の理解を深めていく問い（what,why,how）

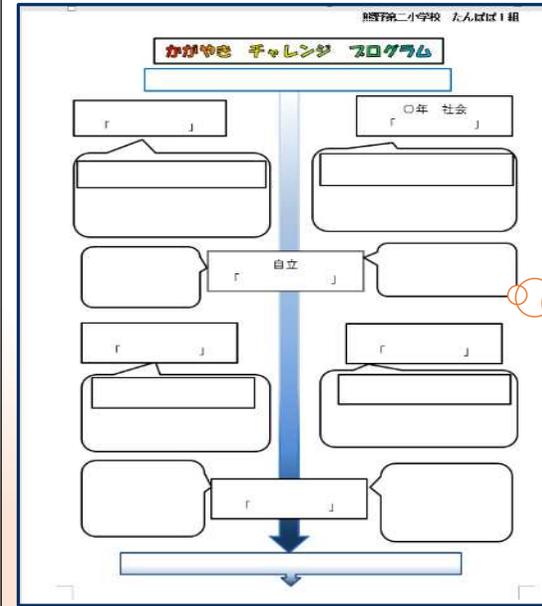
Ⅲ 改善の営み（型の改善）



評価場面の焦点化

現在の担任（評価者）が、メモを残しておく。

Ⅲ 改善の営み（型の改善）



自立活動、生活単元学習を位置付けたプログラム案

I 研究の概要

- P** (1) 主題設定の理由
- D** (2) 道徳学習プログラム
(かがやきチャレンジプログラム)

C II 結果と考察

A III 改善の営み

P IV 今後に向けて

IV 今後に向けて

令和5年度の課題

- さらなる発問の工夫
- かがやきチャレンジプログラムの改善・継続的な実施
- 道徳科の授業内、および道徳科と他教科等を繋げる評価

令和6年度研究主題

**自己の生き方についての考えを深め、
よりよく生きようとする児童生徒の育成
－繋がりに着目した道徳教育の創造－**

IV 今後に向けて



道徳科を要とした教育活動の推進

～コミュニティ・スクールの活用を通して～



世羅町立せらにし小学校
道徳教育推進リーダー 重森 恵美子

- 1 世羅西中学校区の特徴
- 2 研究の概要
- 3 具体的な取組
- 4 成果と課題
- 5 今後に向けて

中学校区の特徴

研究の概要

具体的な取組

成果と課題

今後に向けて



中学校生徒会による
学びの7か条（学びのルール）講習会

せらにし学びの7か条

せらにし小学校 学びの7か条

せらにし小学校 児童会

- 1 授業でのあいさつを大切にします。
- 2 姿勢を正しくします。
- 3 大きい声で返事をします。
- 4 話し手の方を向いて話を聞きます。
- 5 ひじをのばしてしっかりと手をあげます。
- 6 忘れ物は、前もって自分から伝えます。
- 7 次の授業の準備をしてから休けいします。

中学校区の特徴

研究の概要

具体的な取組

成果と課題

今後に向けて



花いっぱいふれあい清掃活動



つばきっこファーム
（いもほり）

研究主題

考える授業を創造し、児童の主体性、表現力を高める
～道徳科における「対話」の充実を通して～

研究内容

- (1) 道徳科における主体的、対話的で深い学びの実現
- (2) 道徳科を中心としたカリキュラム・マネジメントの充実
- (3) コミュニティ・スクールを活用した地域との連携・協働による道徳教育の推進

重点内容項目

希望と勇気、努力と強い意志

友情、信頼

伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度



学校教育計画

令和5年度 世羅町立せらにし小学校 学校経営計画（学校教育全体計画）

校訓 「こころひろく ゆめおおきく」

国、県の教育施策
教育基本法等

学校教育目標 自ら学び、たくましく生きる

世羅町教育プラン
「豊かな心を持ち、たくましく未来を拓く」

【使命（ミッション）】 ふるさとに誇りをもち、夢を語る児童の育成

【学校経営目標】 関わり合い つながり合い 一人一人が輝く小学校

めざす児童像

- 自ら考え、自ら学ぶ児童
- ふるさとに誇りをもつ児童
- 自らを鍛え、自らを管理する児童

めざす学校像

- 一人一人を大切にする学校
- 授業を大切にする学校
- 地域や家庭を大切にする学校

めざす教師像

- 学校教育目標実現に向けて協働する教職員
- 教育のプロとしての自覚と誇りをもつ教師
- 法を遵守し、公教育の責任を果たす教職員

学校評価自己評価表

豊かな心・特色ある学校づくり せらにしの誇りをもつ児童の育成を行う。 自信・主体性を培う。	【つながり合うふるさとプロジェクト】 ○「道徳科」の授業改善を行い、児童の道徳的価値を高める。	道徳科の充実(地域教材の作成・活用) ○本校の重点項目「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を中心とした「道徳科」の授業研修を行い、授業改善を図る。	○授業の様子を動画に撮り、授業改善を行った教職員の割合 100%
	ふるさと学習 ○ふるさと学習の推進を行い、せらにしの誇りをもつ児童の育成を行う。	○せらにしのよさをたくさん発見し、せらにしの誇りをもつ児童を育てる。(内容例「せらにしろ 太鼓」「産業」「環境」「福祉」等)	○道徳アンケート「今住んでいる地域が好きだ」と答える児童の割合(児童アンケート) 90%
	○地域に信頼される学校をめざし、コミュニティ・スクールを充実させる。	○学校からの情報発信や学校に来てもらう機会を設定し、学校の取組を地域の人に知ってもらう。子供を地域に還元	○「自分には役に立っていると思う。」と言える児童の割合(児童アンケート) 70%
		○「せらにしのよさを実感できている」と言える児童の割合(教職員アンケート) 80%	
	コミュニティ・スクールの活用(地域との連携・協働)		

ふるさと学習



牧場見学 (1年)



公共施設の見学 (2年)



福祉体験 (3年)



ホタル学習 (4年)



みそづくり (5年)



化石掘り (6年)

ふるさと学習(カリキュラムマップの作成、活用)

令和5年度 第4学年 資質・能力の育成に係る指導計画 道徳科(せらにしの学校)

単元	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
道徳科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
総合的な学習の時間												
生活科												
道徳科												

ふるさと学習

総合的な学習の時間・生活科

道徳科

道徳科の充実(地域教材の作成、活用)



道徳科

ホタル祭り(地域教材)

ふるさとを大切にすることは、どうすることでしょう。

総合的な学習の時間(せらにしの自然を伝えよう)

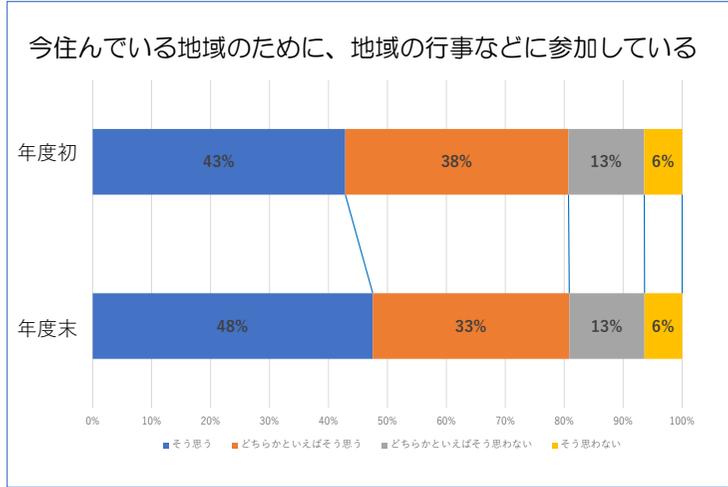
社会科(ごみの処理と利用、水はどこから)



美波羅川とホタルの生態
ごみの処理、水と環境保全

自分との関わりで考える

児童生徒アンケート



今後に向けて

プラスの振り返り、肯定的評価の積み重ね
地域教材・人材活用の改善・充実



ふるさとへの誇りのUP ↑

ご清聴
ありがとうございました。



令和5年度 第2回広島県道徳教育研究協議会 実践報告

令和5年度 道徳教育推進拠点地域事業（八次中学校区）

児童生徒の心に響く道徳教育の創造 ～小中9年間を見通した道徳教育の充実を通して～



八次小学校（中心校）



八次中学校（連携校）



三次市立八次小学校
道徳教育推進リーダー 原 栄美歌

実践発表の流れ

1. 研究の概要
2. 具体的な実践(道徳学習プログラム)
3. 成果と課題
4. 今後に向けて

令和4・5年度 道徳教育推進拠点地域事業 指定校

八次中学校区の研究主題

八次を愛し、自律と貢献の志をもった児童生徒をめざして
～「主体的・対話的で深い学び」のある未来志向の道徳教育の創造～



八次小学校（中心校）



八次中学校（連携校）

本校区で目指す児童生徒の姿

令和5年度 八次小中一貫教育全体計画

三次市立八次小・中学校

【八次小中一貫教育全体計画】

やつぎを愛し 自律と貢献の志をもった児童生徒の育成

【めざす児童生徒像】

- 1 進んで学び、考え、仲間とともに自分を高めようとする児童生徒
- 2 決まりを守り、人の幸せを喜ぶことができる児童生徒
- 3 心身が健康で、八次地域の一員としての自覚をもった児童生徒

主体性、表現力、協働性

今年度の研究推進の柱

(1) 児童生徒の発達の段階や特性等を踏まえた、道徳科の授業づくり

(2) 児童生徒の道徳性を養う道徳学習プログラムの作成
(カリキュラム・マネジメント)

(3) 自他のよさを認め、信頼し合う温かい人間関係の基盤づくり

(1) 学校行事と関連付けたプログラム

(2) 生徒会、児童会、地域資源を活用したプログラム(小中一貫)

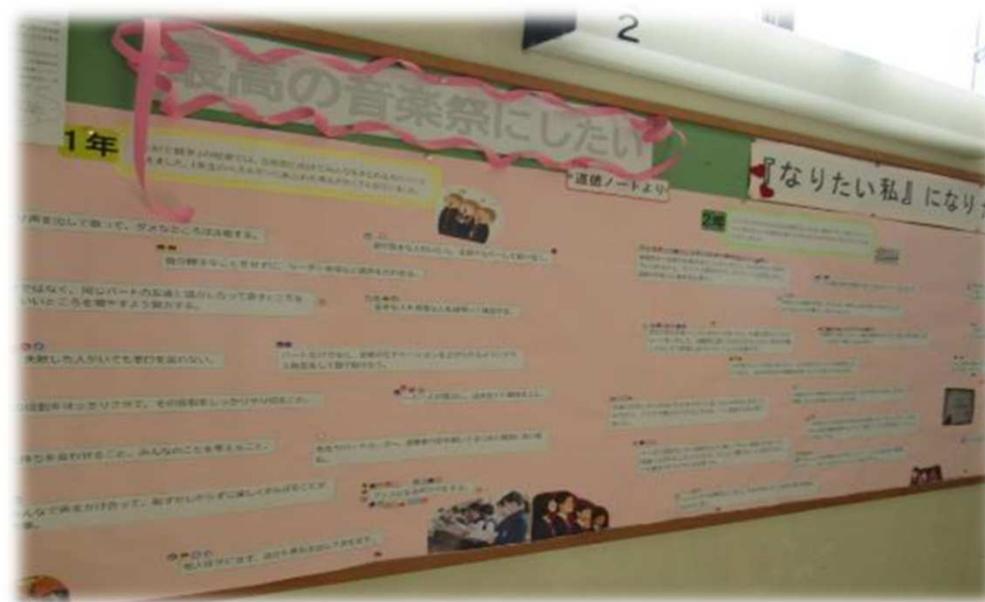
(1) 学校行事と関連付けたプログラム

小学校：運動会

「八次道徳学習プログラム 5年」			
八次道徳学習プログラム名		「一人一人が輝く運動会にしよう」	
中心とする内容項目		B-親切、思いやり	
関連する内容項目		A-個性の伸長	
「一人一人が輝く運動会にしよう」			
過程	児童の意識の流れ	学校生活・教科・領域・行事	道徳科
発見 気づき 思考	<ul style="list-style-type: none"> ○自分達の学級を振り返ってみよう ○一人一人が輝く運動会とはどういうことだろう。 ○みんなが楽しんでいる。見ている人も楽しく、元気が出る。 ○目標をもち、一生懸命に頑張る。 ○仲間からの声かけて元気が出てくる。みんな目標をもって頑張る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「一人一人が輝く運動会にしよう」 ○特別活動 「学級朝会」(学年集会) 「運動会を成功させよう」 ○児童会目標 「心を一つに 最後まで笑顔いっぱい運動会」 ○体育科 「陸上運動」 「表現運動」 	<ul style="list-style-type: none"> 女たいせつな自分らしさ(個性の伸長) 「マンガ家 手塚治虫」 ○自分の好きなことから自分の個性を見つけ、くじけそうになってもマンガ家を続けた手塚さんの思いを通して、自分の長所を積極的に伸ばそうとする心を育てる。 ☆相手のための親切(親切、思いやり) 「やさしいユウちゃん」 ○絆には言にくいことも言う。ウコの姿から、相手のために頑張ることが本当の優しさであるに気づき、進んで親切にする心を育てる。
実践意欲	<ul style="list-style-type: none"> ○目標をもち、最後まで仲間とともに頑張ってきた。これからも仲間とともにがんばろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会 仲間とともに輝く学級に! 	



中学校：音楽祭



〈掲示〉

(1) 学校行事と関連付けたプログラム

見える化・共有



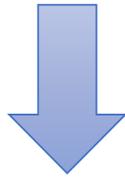
【道徳科の学びを端的に示した言葉と運動会の写真を児童会スローガンとともに掲示】



(2) 生徒会、児童会、地域資源を活用したプログラム(小中一貫)

プログラム作成のきっかけ

地域の方(ゲストティーチャー)のお話から



「あいさつ」から地域を元気にしたい!!

主体性・表現力・協働性の育成
(八次を愛し、自律と貢献の志)



生徒会、児童会を中心とした取組
(小中一貫)(道徳科を要)

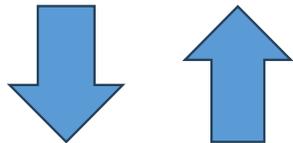
(2) 生徒会、児童会、地域資源を活用したプログラム(小中一貫)

プログラムの作成過程(8月)

学校長、道徳教育推進教師

道徳教育推進教師

周知



改善

小中学校教職員

全教職員でつくるプログラム
→主体的な実践へ

方針の協議、決定
取組の具体の検討、プログラムの作成

項目	実施方法・教材・施設・行事	評価
① 児童生徒の主体的な実践の様子	① 児童生徒の主体的な実践の様子を撮影し、その様子を共有する。② 児童生徒の主体的な実践の様子を共有し、その様子を共有する。	① 児童生徒の主体的な実践の様子を撮影し、その様子を共有する。② 児童生徒の主体的な実践の様子を共有し、その様子を共有する。
② 児童生徒の主体的な実践の様子	② 児童生徒の主体的な実践の様子を撮影し、その様子を共有する。③ 児童生徒の主体的な実践の様子を共有し、その様子を共有する。	② 児童生徒の主体的な実践の様子を撮影し、その様子を共有する。③ 児童生徒の主体的な実践の様子を共有し、その様子を共有する。
③ 児童生徒の主体的な実践の様子	③ 児童生徒の主体的な実践の様子を撮影し、その様子を共有する。④ 児童生徒の主体的な実践の様子を共有し、その様子を共有する。	③ 児童生徒の主体的な実践の様子を撮影し、その様子を共有する。④ 児童生徒の主体的な実践の様子を共有し、その様子を共有する。
④ 児童生徒の主体的な実践の様子	④ 児童生徒の主体的な実践の様子を撮影し、その様子を共有する。⑤ 児童生徒の主体的な実践の様子を共有し、その様子を共有する。	④ 児童生徒の主体的な実践の様子を撮影し、その様子を共有する。⑤ 児童生徒の主体的な実践の様子を共有し、その様子を共有する。

児童生徒の実態
目的、実践内容、評価(見取り)について

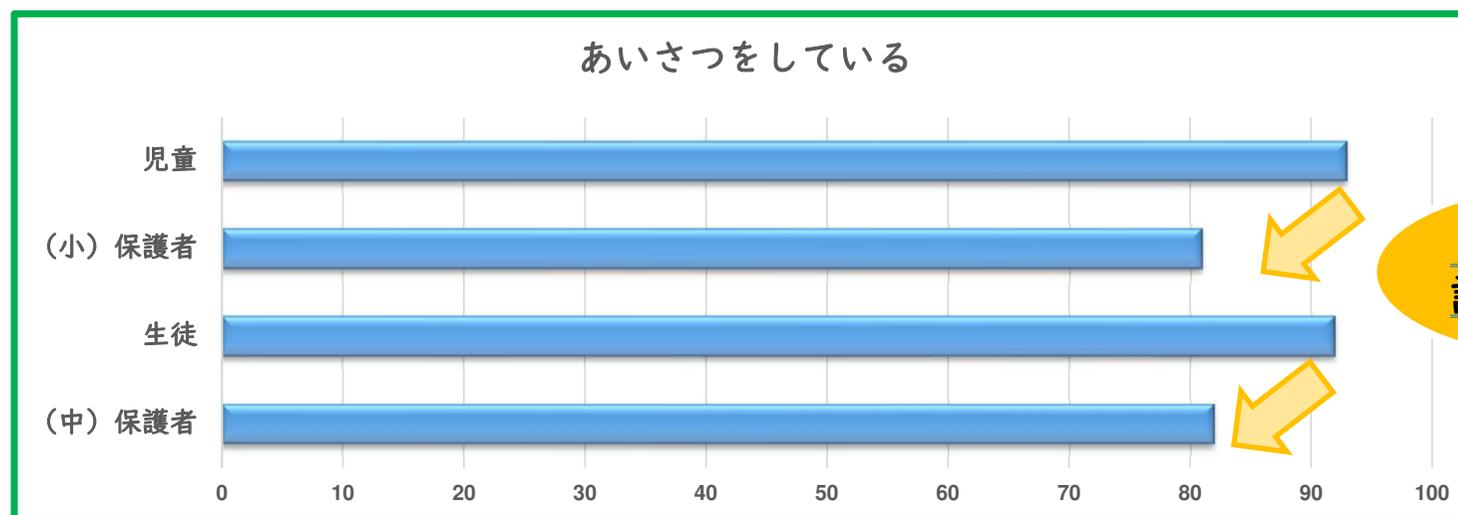
(2) 生徒会、児童会、地域資源を活用したプログラム（小中一貫）

プログラムの充実に向けて

- ① 実態分析
- ② 要となる道徳科の充実
- ③ 児童会、生徒会と関連付けた取組（特別活動）
- ④ 家庭・地域との連携

(2) 生徒会、児童会、地域資源を活用したプログラム(小中一貫)

①実態分析



10%以上の
認識の違い

アンケート分析の活用

- 取組の目的の整理(校長、全教職員)
- 取組の方向性の協議(生徒会、児童会)

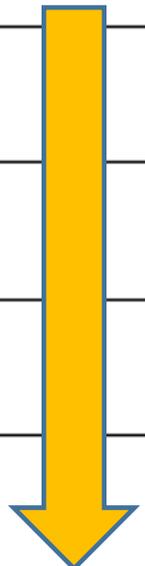
(2) 生徒会、児童会、地域資源を活用したプログラム(小中一貫)

②要となる道徳科の充実

発達段階に沿った目標の設定

3 礼儀の発達段階

	目標	キーワード
低学年	気持ちのよい挨拶, 言葉遣い, 動作などを心掛けて、明るく接すること。	・挨拶 ・言葉遣い ・動作 ・明るく接する
中学年	礼儀の大切さを知り, 誰に対しても真心をもって接すること。	・礼儀の大切さ ・真心
高学年	時と場をわきまえて, 礼儀正しく真心をもって接すること。	・時と場 ・礼儀正しく ・真心
中学校	礼儀の意義を理解し, 時と場に応じた適切な言動をとること。	・礼儀の意義 ・時と場に応じた適切な言動



②要となる道徳科の充実

(低学年)
気持ちのよいあいさつ



(低学年) あいさつを気持ちよくする。暗いあいさつだと、「みんながあいさつをしたくないのかな。」「かなしいな。」と思うから、朝起きたら、元気よくあいさつをする。

(高学年)
心と形

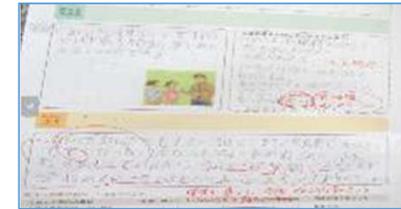
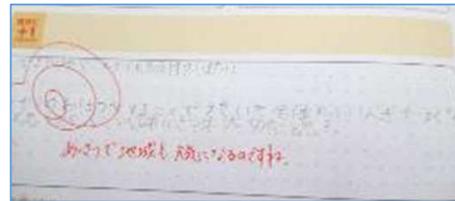


(高学年) 礼儀正しくしていると、印象もいい、自分も相手もいい気分になる。心を形で、形で心を表す。



(中学年)
相手に届くあいさつ

(中学年) 人と会ったらすぐにあいさつをする。
⇒相手がうれしくなるようなあいさつをする。



(中学生) 心からあいさつをすることで地域が全体の雰囲気もよくなると思うから、心からのあいさつは大切だ。

(中学生) あいさつをしているけれど、笑顔でしていない。自分は、もう少し声が出る。時と場に応じてあいさつをしていく。

(中学生)
さりげない立ち振る舞いのなかに相手を尊重する。

(2) 生徒会、児童会、地域資源を活用したプログラム(小中一貫)

②要となる道徳科の充実

小1「どんなあいさつをしますか」(礼儀)



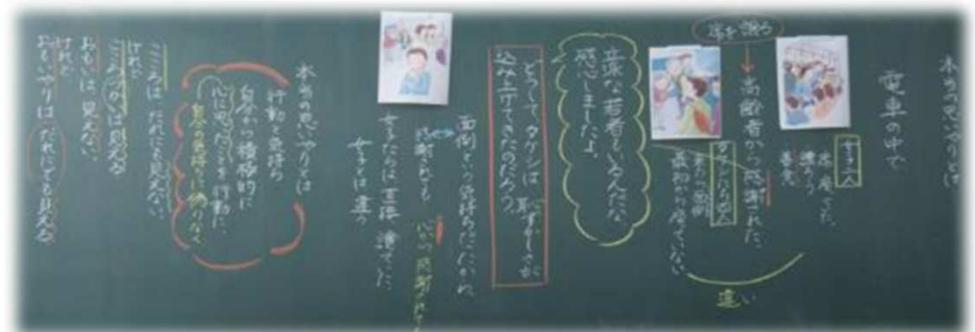
中1「半分おとな 半分こども」(礼儀)



小6「人間をつくる道—剣道—」(礼儀)



中3「電車のなかで」(思いやり・感謝)



(2) 生徒会、児童会、地域資源を活用したプログラム(小中一貫)

③ 児童会、生徒会と関連付けた取組(特別活動)

児童生徒の主体的な取組

→ 資質能力(主体性・表現力・協働性)の育成
(八次を愛し、自律と貢献の志)

実態の分析・活用(生徒会への提示)

アンケート項目	小学校(%)		中学校(%)	
	児童 (5月)	保護者 (7月)	生徒 (5月)	保護者 (7月)
あいさつをしている	93	81	92	82

→ 挨拶の意義(豊かなコミュニケーション)



中学校生徒会執行部
↓ (Zoom)

小学校児童会執行部

(2) 生徒会、児童会、地域資源を活用したプログラム(小中一貫)

③ 児童会、生徒会と関連付けた取組(特別活動)

児童会の取組(小学校)



今月の生活目標
「二人以上に元気よく
あいさつをしよう」

後期児童会目標
「あいさつをして笑顔を増やす」
朝から笑顔でスタートでき、
気持ちよく過ごせるからです。
中学校のみなさんと取り組みます。



(2) 生徒会、児童会、地域資源を活用したプログラム(小中一貫)

③ 児童会、生徒会と関連付けた取組(特別活動)

生徒会の取組(中学校)



あいさつをしてもらって、元気が出たよ。
立ち止まって、丁寧にしてくれて気持ち
が伝わってきたよ。

(2) 生徒会、児童会、地域資源を活用したプログラム(小中一貫)

④ 家庭・地域との連携

学校だよりの活用



児童会からあいさつの取組についてのお知らせ

今、八次小学校では笑顔を増やすために「元気よくあいさつをしよう」という児童会目標を立てて頑張っています。11月1日(水)～11月7日(火)の広島教育ウィークには、「あいさつ強化週間」として、さらに取り組んでいきます。保護者・地域の方々もぜひ一緒に笑顔のあいさつで八次地域を元気にしていきましょう。



※「週刊 YATSUGI LETTER」へはこちらから ⇒



(2) 生徒会、児童会、地域資源を活用したプログラム(小中一貫)

④ 家庭・地域との連携

校内掲示の活用

八次小学校・八次中学校のつながり (取り組み)
「笑顔いっぱい」の八次地域～あいさつから元気をまいていこう～

☆八次中生徒会執行部から八次小児童会執行部 提案

提案内容
あいさつすることで人とのコミュニケーションが喜かになる。元気になる。中学生も小学生も「あいさつをしている。」と思っているが、「あいさつをしない。」「あいさつに元気がない。」と保護者や地域の声がある。小学校と中学校で同じ目標をもって「あいさつ」に取り組まないか。

全校児童に伝える

学校だよりでお知らせ

児童会目標 (小)
「あいさつをして 笑顔いっぱいの八次っ子」

生徒会目標 (中)
「一心歡笑 ～笑顔が築く関係～」

10月生活目標

1年
たいせつな あいさつ
「どんなあいさつをしますか」

3年
真心をもって
「れいぎ正しい人」

5年
相手を敬い尊重する心
「礼儀作法にこめられた心」

中1年
礼儀の意義
「半分おとな 半分こども」

中学校では、あいさつをさされてうれしかったことを伝えていよ。

2年
よりよい れいぎ
「さて、どうかな」

あいさつ
生活に生かそう

- 大きな声であいさつをするよ。
- あいさつはコミュニケーションの一つ。
- 相手を大切にすることにつながる。
- 相手に伝わるあいさつが大切。
- 相手に伝わらないと意味がない。
- 心(気持ち)を形(行動)に
- 恥ずかしがらずにしていきたい。
- 気持ちが伝わるあいさつをしていこう。

中2年
心を形に
「挨拶は言葉のスキンシップ」

4年
身近なことへのかんしゃ
「朝がくると」

6年
れいぎ正しき
「人間をつくる道一剣道一」

中3年
本当の思いやり
「電車の中で」

あいさつの様子

「あいさつ」から地域を元気に!

成果



- ・児童生徒の変化（地域・保護者からの声）
→ 主体性、表現力、協働性の高まり（相手を意識した挨拶）
- ・児童会、生徒会の主体的な取組、繋がり育成
→ 更なる取組への発展性、児童性の資質・能力の育成
- ・教職員の意識の変化（児童生徒への声かけ）
→ 道徳科と全教育活動とのつながりの意識

今後に向けて

道徳教育を通して児童生徒の資質能力の向上に向けて

- 中学校区の教職員の指導力の向上を図る
- ・ 小中9年間を見通した指導に向けた研修
授業改善の推進
 - ・ 道徳教育プログラムの改善充実
(地域・保護者の資源の活用)





ご静聴ありがとうございました